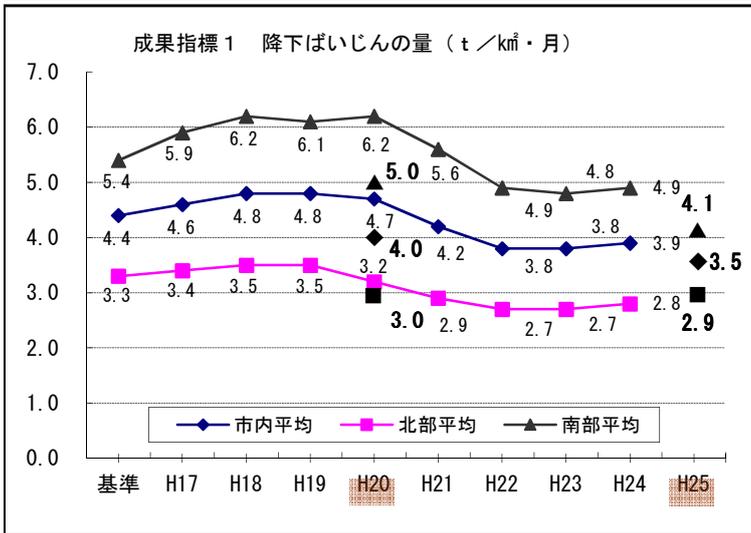


(2) 成果指標評価表

| | |
|------|-----------------|
| 柱 | 1 社会環境 |
| 分野 | A 大気・ばいじん |
| ビジョン | きれいな空気の中で暮らせるまち |

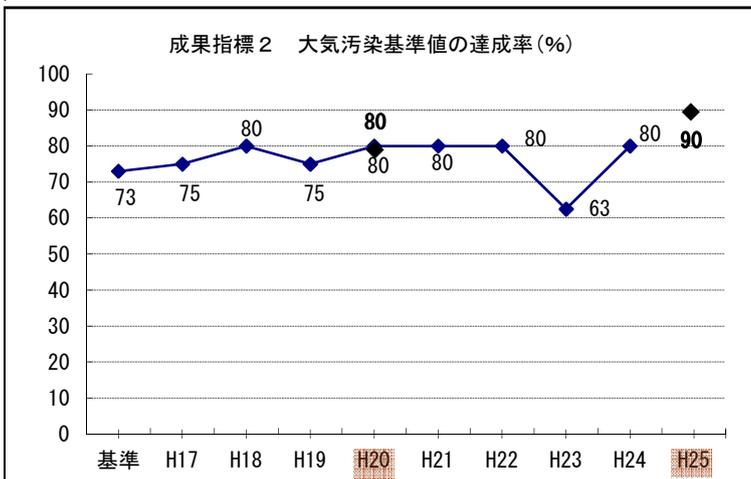


主な事業
 大気汚染常時監視
 降下ばいじん等調査
 公害防止協定による立入り調査
 及び防止対策の指導

計画通りに成果が上がっているか

目標達成
 順調
 順調でない

成果指標の分析
 ゆるやかな減少傾向にあるが、平成25年3月に黄砂が3回観測されたことが影響したと見込まれ、24年度の降下ばいじん量は市内平均3.9t（北部平均2.8t、南部平均4.9t）で前年度と比べ0.1t上昇した。臨海部企業はばいじん発生対策を常実施しているが、対象箇所が多く、また発生を防止するための技術の急激な向上が見込めない状況ではあるが、細かなばいじん防止対策の積み重ねが効果に表れている。また、気象条件により測定値は、増加する可能性も見込まれる。



主な事業
 大気汚染常時監視

計画通りに成果が上がっているか

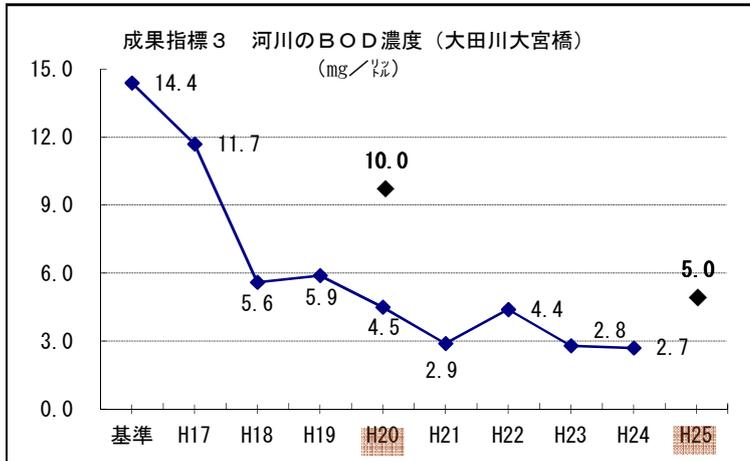
目標達成
 順調
 順調でない

成果指標の分析
 事業所への総量規制、自動車排ガス対策等により、24年度は二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質が環境基準を達したものの、光化学オキシダントは全局で未達成であった。光化学オキシダントについては、発生メカニズムが複雑であり改善が進んでいないため、全国的にも平成22年度の達成率は0%であり、効果的な対策がないのが現状である。

成果が向上する余地（可能性）は？ 大 中 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針
 降下ばいじんは、南部が北部の約2倍と多いため、発生原因の分析をさらに進め、引き続き企業に対してばいじん対策等、環境対策を指導し実現することで改善する余地がある。
 大気汚染基準値では、現在光化学オキシダントの効果的な対策はないが、18年度から始まった揮発性有機化合物（VOC）を減らすための新たな仕組み等、関連各機関における総合的な対策により向上する余地はある。

| | |
|------|------------------|
| 柱 | 1 社会環境 |
| 分野 | B 水質 |
| ビジョン | 川や池を身近に感じて暮らせるまち |

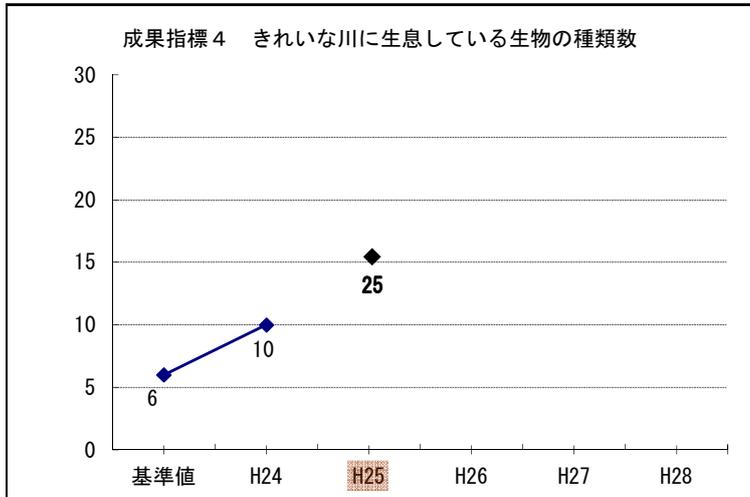


主な事業
 河川の水質調査(8箇所、年4回
 大宮橋のみ年8回)
 河川・ため池水質浄化事業

計画通りに成果が上がっているか

目標達成
 順調
 順調でない

成果指標の分析
 河川の水質調査は、年8回の平均値のため季節や天候に左右されるが、20年度以降は全般的に数値が改善されている。これは、下水道の整備により生活排水の流入が減少したことが大きな要因と考えられる。



主な事業
 大田川等生物調査委託
 渡内川・中川クリーン作戦
 河川ため池水質浄化事業

計画通りに成果が上がっているか

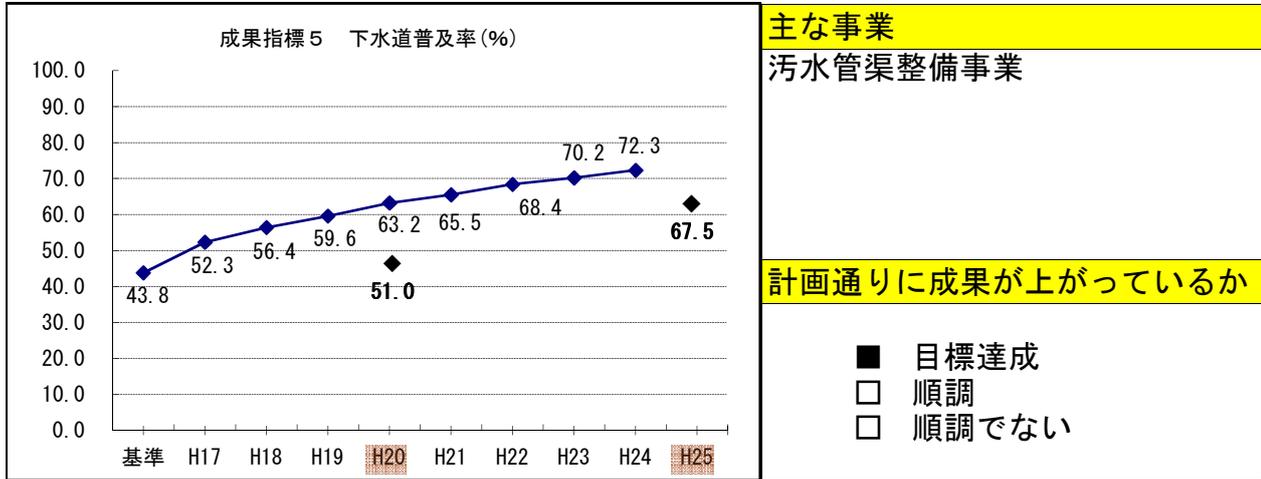
目標達成
 順調
 順調でない

成果指標の分析
 確認された指標生物は、新たに2種類が確認できた。前年度に比べ確認できなかったものが2種類、確認はできたが場所が減ったのが1種類となった。河川環境に係る大きな変動はないと思われる。

成果が向上する余地（可能性）は？ 大 中 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針
 河川や海域の汚れは生活排水の流入による要因が大きいので、下水道の整備拡充を推進することによりさらに向上する余地がある。
 下水道未整備地区においては、生活排水対策の実践など、各家庭で意識して環境にやさしいライフスタイルの推進の啓発することにより向上する余地もある。
 また、河川整備や下水道整備などのハード面での施策だけでなく、河川美化活動等や生物調査により河川への環境への関心を高めるなど、ソフト面での施策が成果向上に対して重要な要素である。

| | |
|------|------------------|
| 柱 | 1 社会環境 |
| 分野 | B 水質 |
| ビジョン | 川や池を身近に感じて暮らせるまち |



主な事業

汚水管渠整備事業

計画通りに成果が上がっているか

成果指標の分析

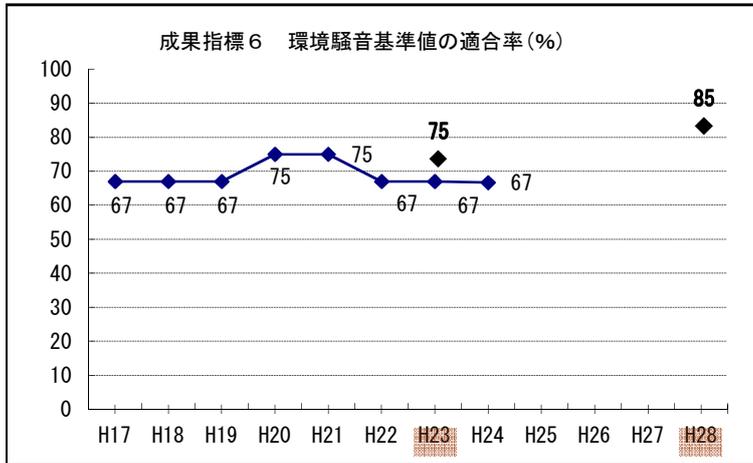
平成24年度の下水道普及率は前年度に比較し、2.1ポイント増加の72.3%となった。これは、名和町、加木屋町で整備済面積が増加したことによるもので、当初の目標である25年度目標値67.5%を超えることになった。

成果が向上する余地（可能性）は？ 大 中 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

汚水管渠整備には多大な経費を要するため、一度に成果を向上することはできないが、事業認可内の面整備工事を実施することにより、成果向上の余地はある。

| | |
|------|----------------|
| 柱 | 1 社会環境 |
| 分野 | C 騒音・振動 |
| ビジョン | 静かでおだやかに暮らせるまち |



主な事業

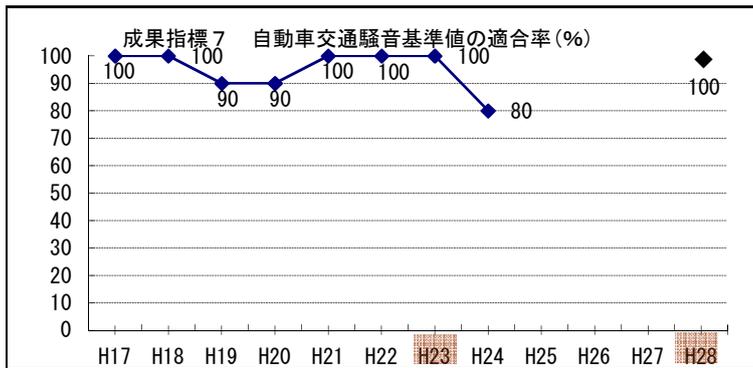
環境騒音測定

計画通りに成果が上がっているか

- 目標達成
- 順調
- 順調でない

成果指標の分析

測定調査は、名和町2地点、中央町、中ノ池、横須賀町、加木屋町の市内6地点で実施している。24年度は、昼間の測定では上野公民館（名和町）で環境基準を達成できなかったがそれ以外の地点では環境基準を達成した。夜間の測定では、上野公民館（名和町）、緑陽敬老の家（名和町）、市役所（中央町）の3地点が達成できなかった。



主な事業

自動車騒音測定
自動車騒音常時監視業務

計画通りに成果が上がっているか

- 目標達成
- 順調
- 順調でない

成果指標の分析

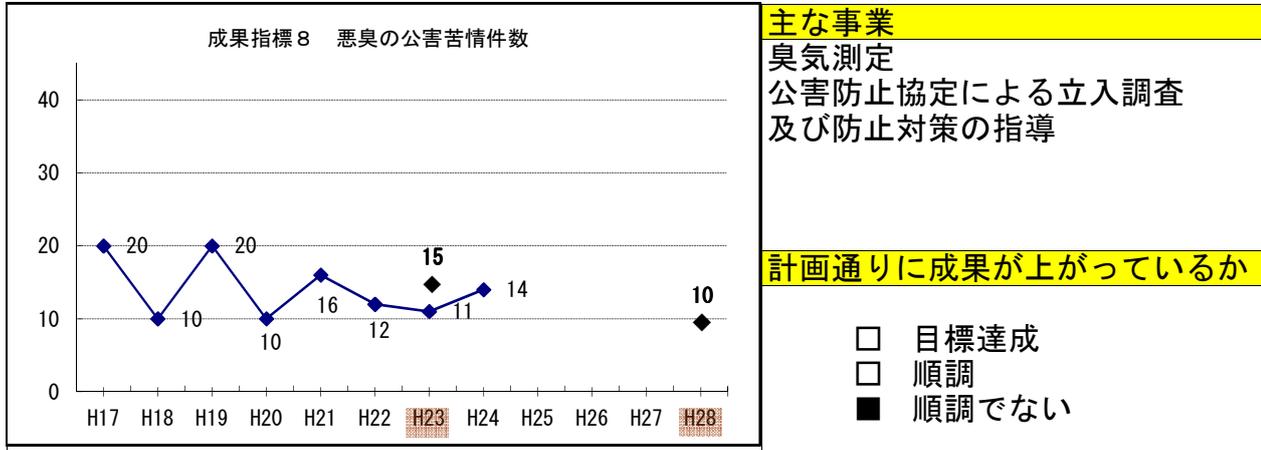
自動車騒音は、名和町2地点、荒尾町、高横須賀町、加木屋町の市内5地点で調査を実施している。
24年度は千鳥敬老の家（名和町）昼間、夜間いずれも要請限度を達成できなかったが、それ以外の地点では、要請限度を達成した。

成果が向上する余地（可能性）は？ 大 中 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

環境騒音が夜間に超過していることから、交通量増加に伴うものと考えられる。直接的な対応は難しいが、環境にやさしいライフスタイルに見直すような啓発活動を推進する。
自動車騒音については、要請限度を超過した地点において今後苦情が発生する場合には、道路管理者と協議を行い対策を検討する。

| | |
|------|---------------|
| 柱 | 1 社会環境 |
| 分野 | D 悪臭等 |
| ビジョン | 健康で安心して暮らせるまち |



成果指標の分析

24年度の悪臭の苦情件数は14件で、前年度より3件増加したものの、23年度目標の15件を3年連続達成した。
 苦情の内訳として、不明が6件、製造業が3件、農業が2件、家庭生活が2件、福祉・医療が1件であった。

成果が向上する余地（可能性）は？ 大 中 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

3年連続23年度の目標値は達成したが、24年度は23年度より件数は増加している。苦情件数は年度によって数値にばらつきがあるため、28年度の目標値達成は不透明である。今後は、固定発生源の対策の啓発、指導、巡回パトロールなどを行い苦情件数を減らしていく。